

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	短期インターンシップ	
科目基礎情報						
科目番号	0039		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	学内の指定はない。インターンシップ実習先にて指定される					
担当教員	前田 弘文,長井 弘志					
目的・到達目標						
企業など学外での実習体験を通じて、本学で学んだ知識・基礎的技術を認識し、さらに視野を広げ、より実践的な知識や技術を身につける。また、社会人としての自覚や職業観を養うことを目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 志望動機	主体的に志望動機を明かにできる。	指導の下で、志望動機を明かにできる。	指導の下で、志望動機を明かにできない。			
評価項目2 企業での実践的な知識や技術	主体的に実践的な知識や技術を学べる。	指導の下で、実践的な知識や技術を学べる。	指導の下で、実践的な知識や技術を学べることができない。			
評価項目3 企業での実習	主体的に実習を行うことができる。	指導の下で、実習を行うことができる。	指導の下で、実習を行うことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2						
教育方法等						
概要	短期インターンシップを通じて、企業側の視点から、より実践的な知識や技術を身につける。さらに業務への責任感・コミュニケーション能力の向上・チームワークの重要性などの基本を身につけ、技術者として働くことの基本を学ぶ。					
授業の進め方と授業内容・方法	短期インターンシップ実習を希望する企業・大学等の研究所に関して事前に調べ、志望理由を明確にし、インターンシップ実習の準備を行う。企業側の受入れ許諾後、企業内の工場・研究所内で実習を行う。評価方法は、専攻科在籍中に実施し、その実習証明書およびインターンシップ報告書が提出されたものについて、前記の証明書・報告書、および学外実習先担当者の評価を考慮した総合評価とする。単位認定は、専攻科2年の後期に行う。					
注意点	実習企業先は、希望通りにならない場合もある。しかし、真摯な態度で実習に取り組み、実習先に迷惑をかけないこと。実習先では、社会人と同等であることを自覚し、礼儀と良識を持つこと。また、実習先の担当者の指示に従い、事故などの防止に最善の注意を払い、行動すること。実習中に集合時間など指定された場合、厳守すること。単位取得には、必要書類の作成時間、実習時間、インターンシップ報告書作成時間を含めて、45時間以上、必要である。					
実務経験のある教員による授業科目						
この科目は、企業の技術者が直接担当する。						
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に調べ、志望理由を明らかにして、志望理由書を明確にする（情報処理能力および知識の整理と文章表現力を身につける）。	志望動機を明かにできる。 企業理解のために情報収集ができる。		
		2週	2. 事前のガイダンスを受け、必要書類を作成する。	書類記載に間違いがないようにする。		
		3週	3. 実際に会社の工場、研究所の実験室で学外実習を行う。体験する実習内容は、生産現場および事業所での業務、研究室での業務などである（実社会で必要とされる知識や技術の方向性を把握し、職業観を養う）。	主体的に実習を行うようにする。		
		4週	4. 学外実習終了後、インターンシップ報告書を作成し提出する（情報処理により報告書を作成する）。	インターンシップ報告書を作成する。実習内容を的確に伝えることができるようにする。		
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
		2ndQ	9週			
			10週			
			11週			
			12週			
			13週			
			14週			
			15週			
			16週			
後期	3rdQ	1週	1. 実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に調べ、志望理由を明らかにして、志望理由書を明確にする（情報処理能力および知識の整理と文章表現力を身につける）。	志望動機を明かにできる。 企業理解のために情報収集ができる。		
		2週	2. 事前のガイダンスを受け、必要書類を作成する。	書類記載に間違いがないようにする。		

		3週	3. 実際に会社の工場、研究所の実験室で学外実習を行う。体験する実習内容は、生産現場および事業所での業務、研究室での業務などである（実社会で必要とされる知識や技術の方向性を把握し、職業観を養う）。	主体的に実習を行うようにする。	
		4週	4. 学外実習終了後、インターンシップ報告書を作成し提出する（情報処理により報告書を作成する）。	インターンシップ報告書を作成する。実習内容を的確に伝えることができるようにする。	
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
		4thQ	9週		
			10週		
	11週				
	12週				
	13週				
	14週				
	15週				
	16週				

評価割合

	試験	発表	レポート	実技・成果物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	80	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	10	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	10	0	0	10
リーダーシップ・コミュニケーション力	0	0	0	30	0	0	30
チームワーク力	0	0	0	30	0	0	30
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0	0	20	20